

令和元年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	第4回葛飾区行政評価委員会第二分科会
開催日時	令和元年7月31日(水) 午前10時から12時
開催場所	葛飾区役所5階 庁議室
出席者	【委員7人】 小松原会長、大畑委員、上村委員、田中委員、谷本委員、西山委員、村上委員 【区側13人】 事務局(政策経営部長、経営改革担当課長、事務局職員5人) 障害者施設課(障害者施設課長、管理係長) 学校施設課(学校施設課長、管理係長、職員1名) 健康づくり課(健康づくり係長)

会議概要

1 開会

(事務局より資料の確認等を行った)

2 事務事業評価

(1) 障害者週間行事

(障害者施設課より「障害者週間行事」の追加資料について説明した後、質疑応答、議論)

A委員 : 一日のおまつりで事業の目的を達成することは難しいのでは。日々の活動で障害者とふれあう場を作ることが大事だと思う。

B委員 : 前回の会議で、他の場所で展示するという案が出たと思うが、その案に対する回答を教えてほしい。

障害者施設課 : 他の場所で展示する場所があるなら、巡回展示などをやっていきたいと考えているが、今年度はウエルピアまつりに来場した、より多くの方に、作品展を観ていただきたいと考えている。

B委員 : 事業の目的である地域社会を非常に狭めて考えているのはいかなものか。葛飾区全体に拡大していくことを考えていく必要があるのでは。

A委員 : ウェルピアかつしか以外の場所で、展示を一度やってみてはどうか。例えば学び交流館で展示してみてはどうか。

障害者施設課 : 堀切地区センターでは展示している。

- A委員 : ウェルピアかつしかは、交通の便が悪すぎる。
- C委員 : 他の地域で展示してもよいのでは。来てもらうのではなく、出ていくという方向性を検討しないと、事業の目的が全体に拡がらない。
- D委員 : 多くの区民の方にノーマライゼーションの考えやユニバーサルデザインなどを知っていただきたい。「～週間」という行事は、一同を介して、問題意識を確認することが目的だと思うので、この時期に、イベントを実施することは重要だと思う。まつりの実施時期を障害者週間より前倒しにした理由をもう一度教えてほしい。
- 障害者施設課 : まつりに参加する方から、寒いなどの意見が出たので、今の時期に実施することになった。
- D委員 : 12月3日～9日の障害者週間の時期に別のイベントを実施してはどうか。また、来年オリンピック、パラリンピックが開催されるので、この時期にイベントを実施しても良いのでは。啓発活動は何回やっても良いと思う。江戸東京博物館で過去のオリンピック、パラリンピックの映像をモニターで流しており、興味深いと思った。
- E委員 : 資料を見ると、各作業所でおまつりをやっているの、そこで展示できないかと思う。巡回して作品展示をすれば、負担も少なく、出品者の励みになるのでは。まずは区役所で展示しても良いと思う。また、各作業所に行くと、スタンプが押せるスタンプ帳を用意すれば、色々な所に行く楽しみや、スタンプを集める楽しみが増えると思う。特に特別支援学校に通っている子どもを持つ保護者は、作業所の情報が欲しいと思う。他には、ウェルピアまつりのアンケート結果で、「作品を制作する過程など写真や工夫の点など説明があると良い」という意見が複数出ているので、これは今年度からは是非やるべきである。例えば、施設の紹介動画を作成して、特別支援学校に通っている子を持つ保護者などに見てもらい、認知を広げる取組みをやってもよいのでは。障害者「週間」では短すぎるのではないか。葛飾区としては、「月間」にして、障害者の認知度をあげるためのイベントを実施すれば、事業の目的を達成するために良いと思う。
- アンケート結果で、「子ども福祉相談」、「ピアカウンセリング」の相談件数が1件などで非常に少ないが、なぜ少ないのか。
- 障害者施設課 : 子ども福祉相談は、普段から相談を実施しているので、これを目的に来場する方が少ないのではないかと考えている。ピアカウンセリングは、ピアカウンセラーが、全ての障害を網羅しているわ

けではなく、限定された障害のピアカウンセリングになってしま
うので、相談件数が少なめになっていると思う。

E委員 : それならば、見直した方が良いと思う。1件のために人を置くの
ではなく、カウンセラーに繋ぐような情報を置くだけで良いので
はないか。

F委員 : 中学校に作品展を見学してもらうのはどうか。

障害者施設課 : 作品の展示は秋なので、学校行事が立て込んでいると思うが、近
隣の学校に声掛けすることはできると考えている。遠い学校から
来て頂く場合は、バスの手配なども必要なので、教育委員会と調
整が必要である。

A委員 : 小中学校にもっと周知するべきだ。

障害者施設課 : こちらとしては来てくださいとしか言えないので、作品の巡回は
検討しないとイケない。

F委員 : ウィメンズパルやウェルピアかつしかで障害者が販売をやってい
る。

小松原会長 : 作品の展示以外にも、やろうと思えば他にもできる。基本的には
作業所に出品をお願いしているのか。

障害者施設課 : 特別支援、盲学校にもお願いしている。

小松原会長 : 作品展だけのためにお願いすると負担だが、他の行事で出品した
物を、作品展に出品してもらえば、それほど負担にならないので
は。

B委員 : やる気が感じられない。広報、PRはもっとやるべきだ。障害者を理
解してもらうために、前向きな姿勢がもっと必要なのではないか。
作品を各会場に巡回する以外にも、写真やパネル展示する方法も
あると思う。

(2) 日光林間学園運営

(学校施設課より「日光林間学園運営」の現地の様子をスライドで確認、追加
資料について説明した後、質疑応答、議論)

D委員 : 素晴らしい施設だと思った。観光地なので、HPは四半期ごとに更
新してほしい。温泉を施設に運ぶことを検討してはどうか。

A委員 : 区外の人が多いのはなぜか。

学校施設課 : 学校の移動教室で利用した横浜市の子どもが一般の数に計上され
ているからである。区外の学校以外の一般利用はそれほど多くな
い。

A委員 : 横浜市とは提携しているのか。昔から利用しているのか。

学校施設課：横浜市には以前から利用して頂いている。横浜市も、保有している施設があるが、学校数が多いので、日光林間学園を利用している。指定管理者も、横浜市に営業をしている。

A委員：葛飾区の学校は、横浜市の施設を移動教室などで利用しているのか。

学校施設課：利用していない。

A委員：区民の優先が大前提。高齢者にもっとPRするべき。区外の人を利用するなら、値段を高くするべきだ。一般の人は何泊まで泊まることができるのか。

学校施設課：3泊4日までである。

C委員：私は、この施設は必要だと考えている。ターゲットをどう絞るか。建物は立派だが、通常のホテルと同じようには利用できない。サークルなどに的を絞った宣伝が良いと思う。

A委員：お酒は飲めるのか。

学校施設課：飲める。食堂でも販売している。

E委員：私は、この施設はなくても良いと思う。莫大な額が施設に投入されているので、区民が一生涯負担するのはいかがなものか。保有し続けるなら、区外の利用料を上げるなどして、宿泊費で年間のコストが賄えるようなシステムにするべきだ。3年以内に構造改革ができないならば、売却の方が良いと感じる。防災など、もっと身近で、多くの人に必要とされる事業に、税金を投入するべきだ。保有せずに宿泊教室を行っている他自治体もあるので、知恵を絞ってやれば良い。防災協定を結んでいる市が利用する場合は、利用料を区民と同額にするなどして、利用してもらう方法もある。

B委員：指定管理者とアイデアは出し合ったのか。

学校施設課：施設側に前回の会議で頂いたアイデアを話した。施設側も是非色々やっていきたいと言っている。今後指定管理者側とも深く議論していく。

B委員：今後とはいつか。

学校施設課：今年度中だ。

B委員：なぜ、指定管理者と議論した内容が、資料として出てこないのか。

小松原会長：どういうやりとりを指定管理者としているのか、現在の状況を資料として次回示してほしい。日光林間学園の売却や廃止については、今回評価していいのか。

事務局：今回は運営方法について評価していただきたい。

A委員 : 指定管理者制度を導入したことについて、どのように成果を評価しているか。

学校施設課 : 利用者の人数は非常に増えている。アンケート調査もしているが、利用者からも高い評価を得ている。特に料理の面で、高評価を頂いている。

A委員 : 利用者の直接の反応はどうか。

学校施設課 : 学校のみでの反応だが、快適に利用させてもらった、キャンプファイヤーの対応が良かったなど、概ね良い反応しか聞いていない。

A委員 : ファミリー層や、企業、サークルなど、施設を利用した一般の方が、どのように感じているか知りたい。

(3) 20歳代・30歳代健康診査

(健康づくり課より「20歳代・30歳代健康診査」の追加資料について説明した後、質疑応答、議論)

E委員 : 勸奨ハガキの改定や電話受付の実施などで、勸奨の応答率を上げる方法を考えるべき。年代は30歳代に絞るべきである。

B委員 : PRはやらない方向なのか。SNSを中止したことはいかがなものか。

健康づくり課 : 様々なツールを活用することは必要だと考えている。SNSでの周知は、改めて今年度から再開していきたい。また、ご意見をいただいたポスター、チラシについては、新たに作るとなれば、予算が必要になるが、予算がなくても、手作りポスター、チラシを作成して対応できないか、検討したい。

B委員 : SNSは絶対に必要だ。若年層に対して、なぜ健診が必要なのか、表現を工夫して、訴えかける必要がある。

D委員 : 広報が甘い。チラシをもっと工夫するべき。若年層の要医療者が予想以上に多かったので、事業としてやるべきだと思う。

C委員 : 同じくPR方法を工夫するべき。一度だけでなく、継続して受診できることを、PRするべき。

A委員 : 私はこの事業を実施する必要はないと思う。40歳以上の方に実施すれば良い。

F委員 : 健康診断の前に、予防医学を普及させることが大切だと思う。

3 その他

事務局より事務連絡

4 閉会